

SA 吹田

“あいほうぶ吹田”でのボランティア・・・ 4年目に

橋 ユミ子(SA14期)

14期生吹田の活動テーマは『吹田市を知ろう、ボランティアを求めて』で、その中の一つの出会いが“あいほうぶ吹田”の重障者の施設でした。24時間誰かに見守られている中で、生きるために頑張っている利用者の皆さんの姿と、それを支えている職員さんや家族やボランティアの仲間を知って、私たち14期生も出会いを大切にしたい気持ちが動機となり、年間行事に参加することになりました。また“あいほうぶ吹田”も地域との交流の広がりを期待しておられて、『9月・あいほうぶ祭り』『1月・もちつき大会』『2月・文化祭』と年間行事のお手伝いがボランティアの始まりでした。そこで設備の良い喫茶の場所があって、施設の利用者さんにおいしいコーヒーを飲んでもらいたいとの願いから、運営費より捻出して@50円(菓子付き)で提供したいとの主旨に賛同することになりました。今年で3年目になり、現在は一週間に14期15期16期と連携してかかわっています。施設のみなさんも馴染みが出てきて、いっぱいお話をしてくれる人、「コーヒー好きやからカップにいっぱい入れてや」と注文をつける人。昼食後の楽しい憩いの場になっております。去る3月24日SA14期として、このままグループ活動を続けようとの意志を確認し、4年目に向けてのあゆみとなりました。おもちゃづくり等の昔あそびのコーナーも小学校、幼稚園で年2回定期的に活動しています。今後もSA吹田での仲間の広がりを期待しています。

(SA吹田通信から転載)

SA 高槻 名称変更のお知らせ

SA高槻は会則改定により平成16年4月1日から名称を従来の「シルバーアドバイザー連絡協議会高槻支部」から「シルバーアドバイザー高槻」へ変更し、同時に「SA高槻」を正式な略称としました。

SA 高槻 篤行賞を受賞



寺田利治氏(元 SA 連協高槻支部長)は、永年にわたり地域におけるボランティア活動の推進の功績を称え、高槻市社会福祉協議会の推薦により高槻市長から表彰されました。

SA 高槻 人権擁護推進協議会で活躍

高槻市人権擁護推進協議会の会報「アクティブ」に松田夏生氏(9期世代間)の活躍振りが、インタビューで紹介されました。同協議会のご了解を得て要約を転載します。

《子どもたちに伝えたいこと》 おもちゃづくりを通してー

九中校区単位会の代表者として、人権啓発活動を盛り上げる為に努力されている松田さんに、苦労話や楽しいお話を聞かせていただきました。

生い立ち

大分県生まれの松田さんは、当時村長だった父親が、炭焼きをしていた朝鮮の方の世話をやくのを見て、皆が仲良く暮らすのが当たり前だと思って育ちました。大阪に来て、さまざまな差別が残っているのを知って驚き、それが人権活動に関心を持つきっかけになったそうです。

病をのりこえて

58歳の時、会社員をしていた松田さんに、大きな試練が襲いかかりました。脳内出血で倒れてしまったのです。二度の手術をのりこえ、根性の2文字でリハビリをがんばり、復帰を果たした松田さんに、会社もいろいろと配慮をしてくださいました。

この苦しかった時期にシルバーアドバイザーになることを勧めてくれた方がいたこと、また特別養護老人ホームなどの施設を訪ねる機会があったことが、松田さんのその後の人生を決めることになりました。

ボランティアデビュー

施設を訪れた松田さんは、そこで自分よりも大変な病気で苦しんでいる人を知り、ボランティアをせねばならないと感じたそうです。

退職後、シルバーアドバイザー講座で、おもちゃづくりを学び、柳川小学校で「凧づくり」を教えたのがデビューとなりました。

その後、人権協の活動やクリーンキャンペーン等、地域でのボランティアでも活躍しています。また、おもちゃづくりを通して、子どもたちに、並んで順番を待つことや辛抱することの大切さなども

伝えていきます。



おもちゃ作りを教える松田さん

「子どもが『おっちゃん、こんにちは!』と元気に声をかけてくれる時が、ほのぼのとした気分になり、一番幸せな瞬間です」と 素敵な笑顔を見せてくださいました。

SA 北河内

市民と在留外国人との ふれあいフェスタ

日本文化の紹介を通して

SA 北河内地域の会 松谷由利子

2003年10月4日(土)に、京阪電車枚方市駅から徒歩2分のところにある「ラポールひらかた」で、「SA 北河内地域の会」と「日本語ボランティアの会」との共催で、「日本文化とのふれあいフェスタ」を開催しました。



スタッフも含めて参加者は120人、そのうち外国人は30人で、晴天にも恵まれ盛況でした。大きなタイトルをつけてみて、改めて「日本文化とは何か?」を私たちにも考えさせてくれました。私がすぐ思い浮かぶのは、茶道と着物です。個人的に茶道をやっている関係からそれを接点に考えました。お茶会(略盆点) 浴衣の着付け(主として外国人対象) 折り紙での会場のデコレーション、新聞紙でのかぶと作り、そして演芸として詩吟、剣舞、どじょうすくい、南京玉すだれ、マジック、銭太鼓、中国の武芸・太極拳、南米のハープ・アルパの演奏、最後に河内音頭を全員で踊り、「上を向いて歩こう」でフィナーレにしました。

南京玉すだれ、マジックでは舞台上に留学生も上がって一緒に不慣れな格好で参加して、ほほえましい光景でした。

浴衣の着付けの希望者の半数以上が、男性の留学生・研修生だったのは以外でした。スタッフが持ってきた下駄を履いて、会館の中をカラコロと音をさせて歩いて楽しんでいました。

またお茶会でも体験コーナーで自分で抹茶を点てて飲んでもらいました。

枚方市に在留外国人が三千人以上いるそうですが日常的になかなか交流ができません。このような会が持ててよかったですと思いました。



SA 東大阪

SA 東大阪は休会中であった支部を平成13年4月復活再興大阪府シルバーアドバイザー連絡協議会の地区SAとして活動を始めました。

平成14年10月には東大阪社会福祉協議会ボランティアセンターに登録をしました。

活動開始後日も浅く、少ない会員なので会単独での活動は成り立ち難く地域の団体と連携支援しお手伝いの形をとりながら、地域に溶け込み密着した活動方式をとっています。

【むかし遊び】と【おもちゃ作り】と 【ゲーム遊び】大会

くすのきプラザ企画運営委員会が主催、SA 東大阪と風車の会が協賛して平成15年8月23日(土)くすのきプラザにおいて、地区の子供達とのふれあい交流を目的に開催されました。

SA 東大阪から久保代表(連協会長)松下明子さん、三野千代子さん(SA13期) 江口美恵子さん(SA15期)が参加し、風車の会代表小林弘さん(SA14期) 府老東部同窓生、東大阪老久悠会とも連動して、むかし遊び、おもちゃ作りとゲーム、劇団「夢問屋」の人形劇で構成して実施しました。来場者は350名、この動員数は東大阪では記録的でした。



SA 東大阪

老人クラブ “あゆみ会” の活動支援

とき：平成 15 年 9 月 21 日（日）

ところ：東大阪市花園自治会館

協賛：シルバーアドバイザー東大阪

私達、シルバーアドバイザー東大阪のメンバーは “草の根運動支援”として地道に地域密着型活動を展開しています。校区福祉委員会、自治会の小地域ネットワークと連動【いきいきサロン】に進んで支援協力活動を行っています。機会あるごとに歌体操はじめいろいろな活動資源を提供、校区を巡回、エリアを草の根的に広げたいとの思いで頑張っています。



コーディネーター久保代表、松下明子さん（SA13 期）江口恵美子さん（SA15 期）のみなさんです

SA 東大阪

【中高年のシニアカレッジ】

郷土に愛着を覚え楽しく暮らせることを目的に、生涯学習の一環として、中高年の市民を対象とした教養講座を “くすのきプラザ企画運営委員会” の主催で平成 15 年 9 月～平成 16 年 3 月までの 6 ヶ月間開講した。

東大阪市文化財課のご支援を得、東大阪市老人大学悠友塾講師 藤井直正先生をお迎えし、テーマは『日本史の大きな流れの中で、東大阪周辺はどうであったか』として、カリキュラムを組みました。受講生は会場収容人員限度一杯の 48 名でした。



カリキュラム

第 1 部【前期 日本史の中の東大阪周辺】

5 回

藤井直正先生

第 2 部【後期 弥生時代・戦国時代の河内 発掘】

6 回

文化財課 福永信雄さん

堺 SA 堺 SA に女性会長誕生！

堺 SA 連絡協議会では、平成 16 年度の会長に佐々木美綺子（14 期世話）さんを選出しました。

堺 SA は、従来から、女性副会長をしばしば選出してきました。今年は佐々木会長と共に、岡崎さんを昨年度に引き続いて、副会長に選びました。



佐々木さんについては、「FINE おおさか VOL 50 2004 WINTER 号」[特集シニアと NPO (同誌 10 ページ)] に詳しく紹介されています。

写真 右 佐々木会長 左 岡崎副会長

堺 SA (今年も期待に応えました)

堺市が主催して、3 月 7 日（日）堺市金岡公園体育館において、「運動と健康フェア」のテーマのもとに、終日大イベントが開催されました。

テーマ関連のブースとともに、2 年前から「手作りおもちゃコーナー」が設けられています。以来毎回堺 SA が、堺市から参加依頼を受けるようになりました。今年は 3 回目となり、堺 SA 会員 17 名が参加・協力しました。

市の参加者数予測は、5000 人といわれていました。当日、昼食に大吹雪となり、出足の減少が心配されましたが、私たちのブースは昼休みも無く、4 時の閉会時刻を過ぎても、親子ずれの皆さんで、賑わいました。

私たちのブースは、他のブースより数倍の広さの割り当てを受けていましたが、それでも狭く感じるほど大勢の人々が詰めかけてくれました。終了後、市の関係者から丁寧な謝辞を受けました。



写真 開会前のブースの風景（一部）

堺 SA は、平成 15 年度もボランティア活動、研修会、自己啓発、会員相互理解・融和等々に取り組んできました。要点を簡単に、以下にまとめ

てみました（堺SAのみなさんは、総会時の「平成15年度事業報告」と併せて見てください）。

作品名	紙トンボ 折り紙(4角の箱)、ピーナツ人形、風ぐるま、リードペーパーの人形、ふくろう、ガリガリトンボ、サイコロキューブ、フィルムケースのプロペラ、はねガエル、ストローロケット
-----	---

(多忙な1年でした)

堺 SA ボランティア活動

- 1、堺福祉フェア・大仙公園 なつかしコーナー、遊びコーナー参加
- 2、府立老人総合センター SA伝承まつり参加
- 3、高野線・堺東駅前 赤い羽根街頭募金活動10名参加
- 4、市社会福祉協議会 3世代遊び交流会7名参加
- 5、市社会福祉協議会 さかいボランティア市民活動フェスティバル玩具づくり7名参加
- 6、市立少林寺小学校 1,2年対象玩具づくり10名参加
- 7、市東支所 支所まつり玩具づくり10名参加
- 8、羽衣青少年センター 玩具づくり2名参加
- 9、堺市・市老連研修会 地域種カリーダー育成講座にて、手作りおもちゃ指導19名参加



写真 研修指導風景

- 10、堺市・市老連研修会 地域種カリーダー育成講座にて、歌本対指導9名
- 11、国民会館 大阪府学童保育指導員指導会2名参加
- 12、堺市金岡公園体育館 運動と健康フェア17名参加(詳細上述)
- 13、老人福祉保健施設(ソルヴィラージュ)介助種カの実施年間4回 延20名参加

堺 SA 研修・自己啓発・運営活動等

- 1、総会(1回)・定例会(5回)・幹事会(6回)
- 2、市介護保険結果長を講師に迎え勉強会実施 全会員対象「介護保険の最新情報」ほか
- 3、老人福祉保健施設見学会実施 会員・16期生
- 4、会員と16期生との懇談会
- 5、堺の史跡散策実施

- 6、16期生との交流定例会と食事会実施
- 7、堺市保健センター医師を講師に迎え勉強会実施 会員・16期生 「高齢者の健康管理」
- 8、堺SA会員による「ボランティア活動の発表」 泉谷(8期福祉) 岩本(12期地舌) 中野(12期地舌) 佐々木(14期地舌)
- 9、堺SA会員活動ネットワーク資料作成